

## 第5回：

**開催日時：** 令和8年2月13日（金） 午後1時31分～午後3時05分

**出席委員：** 三上委員長、北浦副委員長、卯目、北島、南、野沢、  
関山各委員、室谷議長

### 1. 視察計画とグループ別調査報告

冒頭、視察先として茨城県境町や長野県飯田市を候補に、4月後半の実施に向けて調整を進めることで合意した。

各班の報告では、第1班（教育・子育て）が加賀市の事例を参考に、放課後児童クラブを単なる「預かり」から「教育・地域交流の場」へ転換する重要性を指摘。第3班（生活基盤）は地域ごとの困りごとを可視化するマップ作成と、詳細な住民アンケート案を提示した。第5班（PR）は、市の施策が市民に十分に認知・実感されていない現状を課題とし、PR手法の抜本的改善の必要性を強調した。

### 2. 行政ヒアリング（政策広報課）

政策広報課より市民アンケートの現状について聞き取りを行った。若年層（小中高生）の定住意向の推移や、デジタル（LINE）活用による属性別・地域別の詳細なデータ収集、および転出入者の理由分析の強化について議論を深めた。

### 3. 自由討議：社会構造と意識変革

後半の討議では、若者の未婚化の背景にある「子育てへのマイナスイメージ」や「コストパフォーマンス意識」が指摘された。対策として、結婚補助金の所得制限撤廃や、男性の育休取得を促す社会全体の意識変革、さらには健康寿命延伸（75歳現役化）の具体策構築など、人口減少下でも持続可能な社会構造への転換に向けた重要論点が共有された。委員長は、議論を整理するための「全体俯瞰図」を次回提示する意向を示した。

人口減少対策特別委員会（要点筆記）

令和8年2月13日（金）

午後1時31分から午後3時05分

議員 三上委員長、北浦副委員長、卯目、北島、南、野沢、関山、室谷議長

欠席 中垣内

遅刻 なし

傍聴 堀田副議長

事務局 東局長、吉田補佐

---

○ 協議事項

（1）住環境について

（2）その他

○ 協議事項

（1）住環境について

三上委員長 視察の時期と行先についてどうするか決めていきたい。

茨城県堺町などはいいなと思っている。

北島委員 関東か九州はどうか。

野沢委員 日程は早めの方がいいと思う。

三上委員長 視察に行って色々感じてから議論した方が活発になるような気がしている。

北浦副委員長 できれば早い方がいいのではないか。

北島委員 4月の後半はどうか。異動の時期があるので向こうが嫌がるかもしれない。

卯目委員 結婚率の高いところがあるとよい。

三上委員長 できたらどこかを調べてもらえるとよい。

南委員 茨城県の堺町か長野県の飯田市。時期は4月がいいと思う。

三上委員長 飯田市は行政が言ったところだと思う。

関山委員 もう少し課題の整理をしてからの方がいいと思う。調査し何を見るか具体性を持ってからの方がいいと思う。

三上委員長 計画だけは立てていきたい。

関山委員 ネット情報だけでなくもう少し詳しく調べてから。

三上委員長 現地に行って何を得られるかが大事。

関山委員 例えば他市町の事例を調べきってからいった方がいい。行くこと自体は賛成だ。

- 三上委員長 先につながるものになるか突き詰めていかなければならない。僕自身は堺町がなかなか思っているの、皆さんも考えておいてほしい。時期に関しても皆さんの意見を踏まえてたたき台を作っていきたい。視察については、ラインワークスでも議論していきたい。そのほか報告はないか。各グループでこの後何を調べるか相談できるとよい。調査をスピードアップしたい。担当ごとに今後の見通しを聞きたい。教育・子育てについて何かあるか。
- 北浦副委員長 児童クラブ関係で加賀市の実情を調べに行きたい。教育と地域がつながって、やっていると見に行こうかとなっている。指導だけでなく、地域の方と交流をしているようだ。
- 南委員 あわら市の子どもクラブを見た。シルバー人材の方が見守りをしているが、目の前でいじめのようなことが起きる場面もあり、このままではいけないと感じた。  
芦原子子どもクラブ12月から民間委託になり、必要な物をすぐ購入できるなど、物事を進めるスピードは上がった。ただ、中身については始まったばかりでわからない。  
加賀市の児童クラブは評判がよい。福祉的観点だけでなく教育的観点も入れており、長期休みには施設内に閉じ込めるのではなく、キャンプ等も行うという。移住定住の集まりの場でも、小学校後の過ごし方への関心が高いと聞いた。児童クラブは重要だと考える。  
あわら市は福祉的に「預かり」に主眼が置かれているため、改善できないか検討したい。まずは芦原子子どもクラブの現状把握と加賀市の視察を進めたい。
- 三上委員長 経過を共有いただけるとありがたい。進捗は積極的に伝えてほしい。
- 北島委員 人手不足は高齢者施設だけでなく児童クラブでも深刻である。民間委託は費用がかかるが、やむを得ない状況である。
- 三上委員長 すでに人口減少の影響が出ている。自分も芦原子子どもクラブを見に行っているが、人手をこちらで確保しなくてもよい点は大きいといていた。担当課からも同様の話を聞いている。
- 北島委員 以前、長期休みの食事提供を求めたことがある。シダックスの子会社として運用しているOisix（オイシックス）を活用し、配食サービスの成功事例もある。
- 三上委員長 引き続き重要な論点である。
- 南委員 広域連合の介護保険について勉強し、一般質問を行う予定である。介護職員の減少が深刻である。採用のしかたも「やってきた」だけでは不十分である。施設も本気で人材を確保すべきだ。保険料が上がる見通しもあり深刻である。健康寿命延伸に力点を置くというが、具体策が見えていない。
- 三上委員長 現在進行形で影響が出ているということである。詰めていく必要がある。続いて②産業と雇用の再構築について、見通しはあるか。先日、北島委員議員から資料提供があった。うまくいっているところを見ていくことになるのかなと思う。

- 北島委員 行政に来てくれそうなところを探してもらわないといけない。
- 野沢委員 若い世代がどの分野に就職したいかの調査もしたい。調べて芦原にその分野がないのか確認したい。
- 三上委員長 富山ではアニメーション会社などの進出事例もある。  
面白い観点である。進めてほしい。  
続いて③生活基盤の強化について。
- 関山委員 LINE WORKS で共有いただいたアンケートについて、アンケートのたたき台を作成した。これから担当課が来たら行政のものと比較し、行政として何が足りないかを確認したい。  
これはグループ3だけだが、全グループの内容を集約し、整理してからアンケートにしたい。なので課題整理が重要である。議員定数についても聞きたい。定数に関しては中心市街地外では、議員が減ると困るという声もあるかもしれない。地域ごとの困りごとをマップ化し、エリア特性を含めて傾向を見たい。
- 三上委員長 重要な観点である。
- 関山委員 進捗としては、アンケートを委員会としてボリュームを増やしつつ絞り込み、整えた形で実施したいということである。
- 三上委員長 今日この後、行政ヒアリング後に少し話したい。続いて④出生率の増加と健康寿命延伸について。
- 卯目委員 先日、森林組合で調査した。移住定住で人口を増やすため婚活も行っているが簡単ではない。むしろ流出を防ぐにはどうするか、外から人に入ってもらうにはどうするかを調べたい。
- 三上委員長 自分は、とくに健康寿命延伸が課題に見えている。基礎データの収集と先進事例の整理を進め、議論できる形に整えたい。次回までに準備したい。  
続いて⑤移住定住とPRについて。担当として自分から話す。  
総合振興計画を見る機会が多かった。制度整備は着実に進んでいる分野がある一方、市民の満足度や実感が比例していないと感じる。制度の充実が認知や周知につながっていない可能性がある。  
あわら市は子育て施策も一定進めているが、「子育て環境がよい」と市民が認識しているかは別問題である。認知・周知、見せ方、PRに課題があるのではないかと。ここにメスを入れたい。
- 野沢委員 境町のチラシのように、あわら市が何に取り組んでいるか一目で分かるものが必要である。今やっている施策も含めて、ぱっと見て「これをやっている」と分かる見せ方が足りない。住民アンケートでも乖離を感じる。事実が伝わらなければ価値は実感されないため、意識して取り組むべきである。
- 三上委員長 1～5の報告をいただいた。14時になったので行政ヒアリングに移る。

本日は政策広報課から市民アンケートについてヒアリングする。なるべくざっくりばらんな議論をしたい。配信は一旦止める。結果は最終的に市民へフィードバックするが、この場の議論は「言った・言わない」にならないよう配信を停止する。了承いただきたい。

また、政策への批評等は基本的に控えていただく。

14:00 政策広報課 入室

多賀補佐

資料説明

三上委員長

この資料の外部評価、内部評価委員はどのような人で構成されているのか。

多賀補佐

内部評価委員は副市長が委員長で、総務部長、創造戦略部長、監査委員事務局長、総務課長、財政課長、政策広報課長で構成している。外部評価委員は、8名で会長は県立大の桑原先生、あわら市区長会連絡協議会長の市野さん、農業委員会会長の加藤さん、旅館協同組合長の山口さん、商工会女性部の久野さん、PTA 連合会会長の田島さん、都市計画審議会の小嶋さん、社会福祉協議会会長の阪野さんである。

三上委員長

どのように評価されているのか理解できたと思う。何かあるか

関山委員

アンケートでこの部分はしっかりとっているところとか、とれていないところとか把握しているか。

多賀補佐

毎年 1,000 名に送っている。市全体の傾向を見るには 1,000 件は把握しやすいが、例えばクロス分析をするなど詳しくしようとすると、数が少ない地区の数値は全体を反映する回答ではないということはある。属性を絞ると足りないと思う。世代、性別ごとのサンプルをとることは不足している。

野沢委員

その通り。対象となる人が、例えば障がい者が暮らしていく上での意見も大事だと思う。子育て中の人には子育てに関する思いが出てくるが高齢者のことはあまりわからない。「わからない」部分が課題だと思う。

多賀補佐

ご指摘の通り。例えば高齢者を対象にしたアンケートが現実的かということも踏まえて、今後全庁的に考えて行かないといけない。行政評価の手続きも踏まえて市民がどのような思いでいるのかを拾う方法を検討していく必要はあると思う。

北浦副委員長

ここでは年齢は 18 歳が一番若い。年齢を下げていくことは考えてないのか。

もうひとつ、例えば吉崎だと、吉崎地区で何人と決めているのか、ランダムに発送しているのか。

多賀補佐

年齢を下げることについて、もともと 20 歳だったものを数年前に 18 歳に変えた。今回、総合振興計画を策定するにあたり、小中学生にアンケートを取った。その中で、定住意向を聞いたとき小学生は 6 割ぐらい定住したいといっている。中学生になると逆転する。高校生になると半々となる。この分析は重要だと考えている。定期的にこのようなアンケートを把握していくことは重要だと考える。

対象地域だが、発送者の情報はシステムから出すということで男女別、年齢の割合は住民基本台帳の割合をもとに発送している。無作為抽出なので、居住地域に近いところでは抽出されるが、必ずしも吉崎地区に何人いるからこれくらいということにはなっていない。

北浦副委員長 若いうちから関心を持ってもらうためにも年齢を下げるといいと思う。

地域によって住んでいる条件も違うので、地域割りを加味してもらえるとよい。

多賀補佐 地域の割合を考慮したアンケートは重要だなと思うが、地域によってはその年代の人がいないこともある。現実的なことではラインを使った取り組みが重要性を増していくのではないかなと考える。今住んでいる人の思いをできるだけくみ取れる仕組みを考えていく必要があると考える。

卯目委員 高校を卒業した若い人が都会に出ていく理由がわかれば、対策も考えられるので、その辺もできたら考えてほしい。

多賀補佐 昨年、高校生のアンケートをした。あわら市に定住したいか聞いた。その理由も聞いている。ある程度その理由は推測できるが、選択肢がない場合もあったと思う。次世代タウンミーティングのようなところで実際の考えを聞く、アンケートと本音、定量的なことと定性的なことを組み合わせて実施する必要がある。若い世代の声を取り入れた取り組みが必要と課内で共有している。

三上委員長 アンケートの中で、県外からの転入について分析することもできるのではないかな。

多賀補佐 アンケート分析は有効だと思う一方で技術的に人員を避けていないのが現状だ。

三上委員長 スクリーニングする仕組みができていないということか。

多賀補佐 ラインで集計が取れば、分析も可能かなとも思うが、幅広い世帯に聞こうとすると、どうしてもデジタルだけに偏ることはできない。今後ラインの割合を増やしていくことも考えていく。

三上委員長 結果がスクリーニングできる状態になっていない。

北浦副委員長 これらのアンケートは職員が手入力しているのか

多賀補佐 市民アンケートは手入力である。QRを読んだ人はデータでできる。ラインもシステムでできる。ラインなどで入ってきたデータは母数が少なく、クロス集計できない。

北浦副委員長 アンケートは貴重なデータなので何とかできるとよい。

三上委員長 紙で保存しているのか

多賀補佐 紙とデータで保存している。

三上委員長 エクセル上でやろうと思えばできるのか。

多賀補佐 基礎データはできている。その先はやっていない。

南委員 アンケートに答えないという選択肢はあるのか。(はい)

ラインを推進して行ってほしい

- 関山委員 アンケートの中であつたらいい情報はあるか。
- 多賀補佐 項目としてはとれていると思う。数は必要 属性ごとにとれるようなところがあればよい。転出入のアンケートは重要だと思う。今年、転出入者のアンケートの予算を上げた。社会増減理由を探るということで県でも実施することになった。結果はまだわからない。結果を見てこれからのことも見ていきたい。
- 北浦副委員長 評価シートは予算に反映されているのか。
- 多賀補佐 シートのとりまとめは政策広報課だが KPI 等入力担当課で行っている。内部評価外部評価には担当部課長が入っているので、指摘を受け、アドバイスを受けている。それを受けて施策の方針を出す仕組みである。
- 北浦副委員長 反映される方法はどのような形か。
- 多賀補佐 予算要求の時は部の中で方針が示されると思う。
- 14：40 政策広報課退室
- 北島委員 結婚したくない理由で女性は必要性を感じない、男性は自分が使えるお金が減る。結婚したくない人は3年前の調査より10%増えたと書いてある調査もある。
- 卯目委員 女性が結婚したくない理由がわからない。女性が何を考えているかが分からないため、今度は女性だけに参加してもらい、思う存分いろいろ話してもらう会を開催することになった。やってみようということで実施する。現在募集中である。
- 三上委員長 また結果を教えてほしい。
- 卯目委員 どんな結果になるか分からないが。
- 三上委員長 その辺は重要である。コストパフォーマンスが悪い、という話も聞く。冷静にお金と時間を考えると、結婚や子どもをつくるのがどうなのか、という話になることもある。
- 北浦副委員長 子どもはあまり必要だと思っていない。なぜそうなのかな。
- 卯目委員 私が考えているのは子どもを育てることを、実際には経験していない人が多い。子どもが生まれたら、自分が育てないといけないという責任が生じる。夫がいても、結局は自分が育てるといふ責任のようなものが今までとは全く違う感覚になる。
- 仕事もしなければならず、さまざまなことを同時にしないといけないとなると今は情報が多く、昔なら知らなかったことまで全部分かってしまう。そうになると、子どもを持つことをよく考えるようになり、ためらいも生じる。そうした本音を聞きたいと思い、この会を企画した。そうした要因はあると思う。子どもがいるからといって周囲は特別な目で見えてくれるわけではない。
- 北浦副委員長 今は、子どもは必要ないと思っている人もいます。昔は世間体や「子どもがいないと大変だ」といったこともあったが、今はそうではない。
- 北島委員 楽しいことも多く、婚期が遅れる。
- 北浦副委員長 それも要因かもしれない。

- 関山委員 「子どもがいない」という人は意外と少ないと思っている。ただ、お金がかかる、自分の時間がなくなるなど、マイナスのイメージが強い。未婚者にとって子育てのイメージが悪い。まずそのイメージを改善したいという話を前にした。
- 結婚直前になると、その「悪いイメージ」に飛び込む選択を迫られる。よくあるのは20代後半から30代に入る頃で、そこで結婚しない選択をすると、30代以降は出会いが激減し、結婚できない状態が続くと思う。タイミングを逃してしまう。
- 一步踏み出せるかを改善する方がよい。卯目議員が取り組む婚活事業は応急処置のように見える。それより手前の段階で、イメージ改善など根本的なところを見た方がよい。
- 三上委員長 昔は結婚して子どもを産むのが常識で、みんなが当たり前になっていた。今は選択肢があるため、個々が考えるようになり、イメージの影響力が大きくなっている。
- 南委員 自分たちの時代は、結婚にコストパフォーマンスなど考えたことがなかった。今の若者に聞きたいのは、結婚せずキャリアを続けて、年を取って年金生活になり一人になることの寂しさは、どう捉えているのかという点である。
- 卯目委員 情報が多く、端から端まで選べる時代である。昔は見合いで親に言われて結婚し、離婚せず長く続くことも多かった。今は違い、嫌ならすぐ別れるという現象もある。
- 女性も経済的に自立できるようになり、家庭と社会の分担が曖昧になった。夫婦ともに両方を担わねばならない。加えて、夫となる人が子どもを責任を持って見られるかは疑問も残る。
- 子どもはかわいいが、選択に至るまでの過程には多くの要素がある。
- 北浦副委員長 若い時から子どもに触れる機会を作り、子ども好きになってもらうことも大切である。中学・高校で保育園に行き、赤ちゃんを抱くなどの取り組みもある。
- 男性の育休制度も、子どもを持つ選択につながる可能性がある。制度面の仕組みも作っていくことが大切。制度面と意識面の両方で考える必要がある。
- 関山委員 制度の話で言うと、結婚補助金に所得制限があるので外してほしい。結婚のきっかけの一つになるなら、外した方がよい。
- 北島委員 制度は関係ないという意見もある。福井県は子どもに手厚いが出生率順位は高くない一方、支出が少ない県の方が順位が高い例もある。
- 関山委員 お金がもらえるから結婚する人はいないが、ネックになるなら所得制限は外した方がよい。制限を外さないなら、やめたほうが良い。
- 卯目委員 男性の育休が取れると言っても、小さい企業も含め、いつでもどこでも誰でもが関わられるように、周囲が理解する社会が必要である。社会全体で子育てするという方向性が重要である。

結婚はお金がなくてもできるが、子育てはお金がある人しかできないという状況になってはならない。制度が整った職場だけでなく、一般の職場でも成り立つ仕組みが必要である。みんなで育てる社会を醸成していくべきである。

三上委員長

少子化に関する資料（リンク）を LINE WORKS に投稿する。

移民で救われている部分はある。企業は外国人の労働力で生産性を上げているが、弊害で困っている自治体もある。共生・共存の課題がある。韓国などは合計特殊出生率が非常に低い。日本は 1.27 である。フランスの事例では、人口増の一部は移民の子どもによる面もある。交付税の算定にも影響するため、自治体財政上は救われる面もあるかもしれない。

弊害の部分はどう消すかが重要である。

卯目委員

フランスは結婚していなくても子どもを産めば登録し、市民として扱うことで人口が増えている。結婚制度の前提を踏まなくてよい。日本でそのまま取り入れるのは難しいと思う。

三上委員長

考えないわけにはいかない。必要なら我々から提言すべきである。問題提起として重要である。増やす施策と、減っても成り立つようにする施策の両建てで考える必要がある。全貌をつかみ切れていないため、課題整理を進めたい。

今後について話す。次回の行政ヒアリングをどのグループで行うか、またアンケートについて議論するタイミングを設けたい。兼ね合わせてもよい。スピード感を出したい。

議論が滞っているのは整理ができていないためであり、自分の責任である。骨格は作りつつあり、次回までに必ず資料を出す。それをもとに、足りない点や議論済みの点を俯瞰できるようにし、さらに補足してもらおう形にしたい。

今回は、全体像を俯瞰する回と、関山議員のアンケート案を踏まえた議論を挟んでもよい。行政を入れると時間が長くなる可能性があるが、可能なら実施する。

今回は通常の流れをしてから教育と子育ての報告をお願いします。そのうえで自分が全体像資料を作成する。グループ3が提案したアンケートをどのような形でやっていくか、何をどう把握するかを議論する。事前に LINE WORKS で問題提起してもよい。

今回は会期中になるので、現実的な日程で調整する。スケジュールは一旦区切ってから決めてもよい。

最後に言っておきたいことがある方はいるか。なければここまでとする。本日も議論いただき、ありがとうございます。ここから精度を上げて進めていきたい。次回もよろしくをお願いします。